



防災情報提供センターの紹介*

島津好男**

1. 防災情報提供センターとは

国土交通省は、気象、河川、海洋、交通、国土などに関する様々な防災情報を保有している。近年はホームページでもそれらの情報が公開され、必要な情報を選んで見ることが可能になってきた。しかし、互いに関連した情報が省内の局や庁など各部署のホームページに分散していることも多く、見たい情報を探したり一度に入手したりするには不便であった。

そこで、国土交通省は2003年6月に防災情報提供センターを開設した。防災情報提供センターは、ホームページサイト (<http://www.bosaijoho.go.jp/>) のことであり、国土交通省の複数の部署（気象庁、河川局、道路局、国土地理院）が共同で管理し、気象庁（観測部計画課情報管理室）が運営主体となっている。また、省内の他部署も情報提供に協力している。

このホームページは、防災情報の検索・入手を容易にするため次の2つの機能を備えている。

① 複数の部署のデータを統合した情報の提供または任意のデータの検索・表示

② 各部署の提供する情報ページへのリンク

そして、台風襲来時などは特に多くの方に利用されている。たとえば、2004年10月に台風第23号が日本に上陸・縦断したときには、1日のアクセス数が900万ページビューに達した。

なお、防災情報提供センターへのリンクはフリーであるが、上記①のセンター独自の情報は国土交通省

が、②の情報については各情報提供部署が、著作権を有しており、引用の際は出所を明示していただく必要がある。

2. 防災情報提供センターホームページの内容

2.1 省内の雨量・レーダーデータを統合したリアルタイム情報

2.1.1 リアルタイムレーダー

河川局・道路局と気象庁のレーダーデータを合成し、全国のレーダー画像（第1図）を作成して提供している。その詳細を以下に示す。

時間間隔など：10分ごとのレーダー画像を3時間前まで表示可能。

範囲：全国。地域ごとに拡大可能。

データ合成に用いるレーダーの数：

河川局・道路局 26台

気象庁 20台

河川局・道路局と気象庁がそれぞれ単独で作成していたレーダー画像では、地域によってレーダーエコーを十分にとらえられないことなどがあった。しかし、両者のレーダーデータを合成することにより、そうした問題は解消されている。

2.1.2 リアルタイム雨量

河川局、道路局、気象庁の雨量データを統合し、全国で約4,300地点の観測所のデータを提供している。その詳細を以下に示す。

観測所の数：河川局 約1,900

道路局 約1,100

気象庁 約1,300

計 約4,300

時間間隔など：1時間ごとの時間雨量と10分ごとの

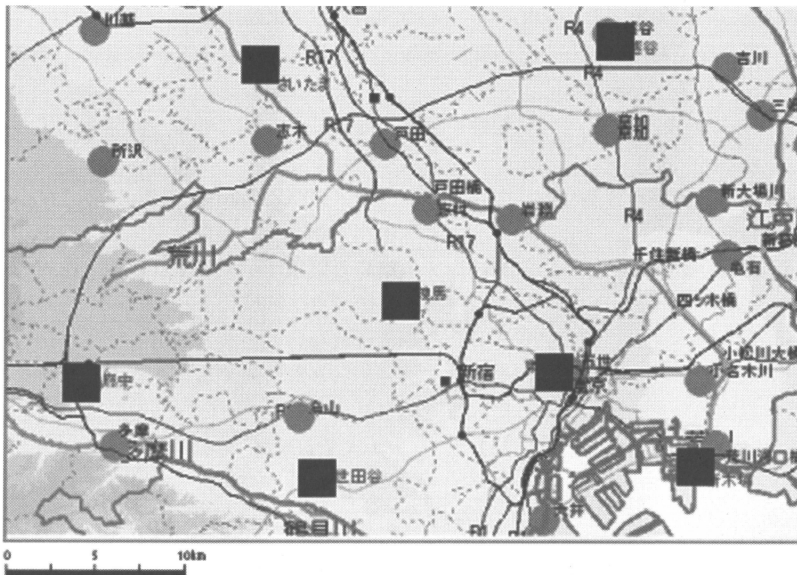
* Information Service Center for Disaster Prevention.

** 気象庁観測部観測課防災情報提供管理室
(現所属：長崎海洋気象台業務課)。

© 2005 日本気象学会



第1図 防災情報提供センターリアルタイムレーダーの全国画像の例。



第2図 防災情報提供センターリアルタイム雨量による東京付近の雨量観測網。四角印が気象庁の観測所で、丸印が河川局と道路局の観測所。

10分雨量を3日前まで表示可能。

地図表示：全国各地の地図上に雨量を表示。

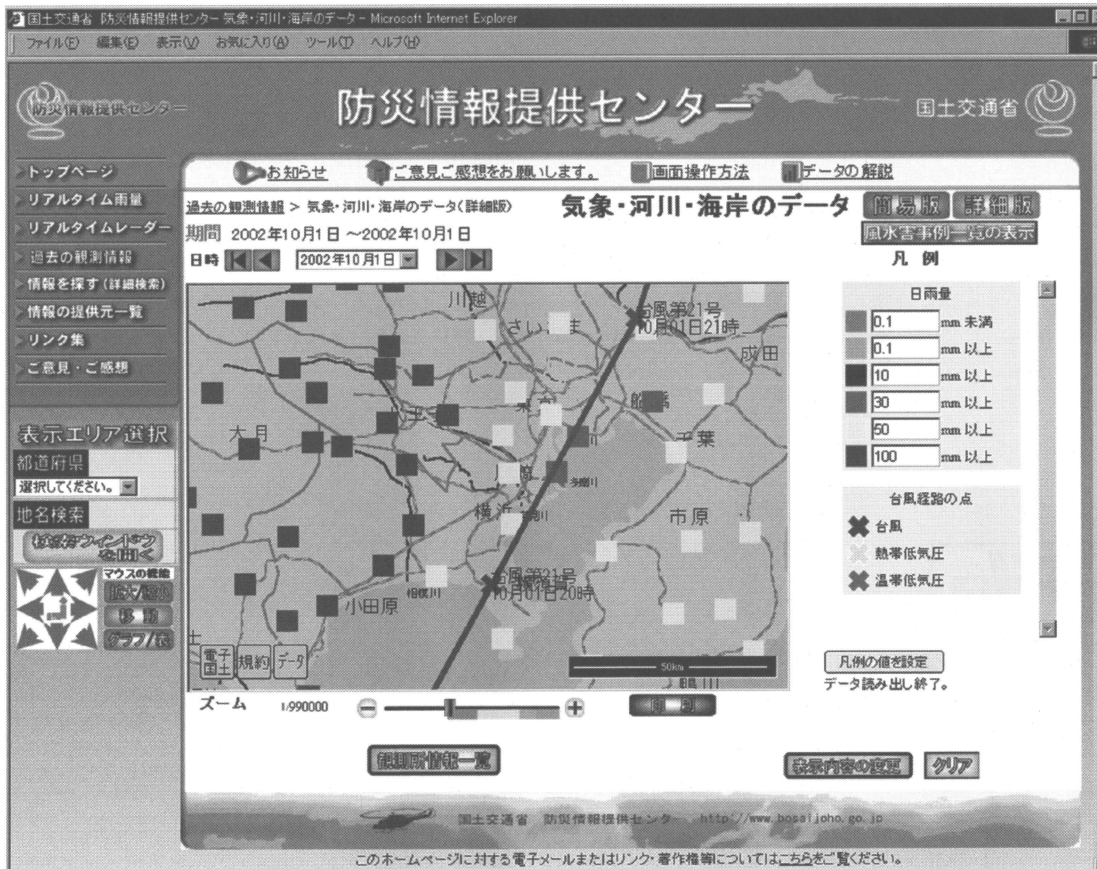
地図の移動や拡大も可能。

表とグラフの表示：地図上の観測所をクリックすると、雨量の時間系列データを表とグラフで表示。

3つの部局のデータを統合することにより、空間分解能の高い雨量観測網が実現した。たとえば、東京付近の雨量観測網(第2図)を見ると、気象庁だけの場合(四角印)は観測所が10~20 km おきであるが、河川局と道路局の観測所(丸印)も合わせれば数 km おきに観測所が分布する地域もあり、局地的な大雨などをとらえるのに有利であることが分かる。

2.2 各部局のホームページ情報へのリンク

現在、国土交通省の気象庁、河川局、道路局、国土地理院のほか、水資源部(土地・水資源局)、下水道部(都市・地域整備局)、港湾局、北海道局、海上保安庁、国土技術政策総合研究所のホームページの防災情報にリンクしており、省の防災情報に関するポータルサイトの機能を有している。それらのリンク情報は次の8



第3図 防災情報提供センター「地理情報システムを活用した観測データの検索・表示ページ」の例。

種類に分類され、また、それぞれの分類に含まれる各種の情報ページが直接リンクされており、必要な情報が見つかりやすくなっている。

- 国土交通省災害対応
- 気象情報
- 地域の降雨情報
- 河川情報
- 洪水情報
- 道路情報
- 地震・津波・地殻変動・火山情報
- 港湾・海洋情報

また、情報の検索機能を備えているほか、次のような目的別のリンク集も掲載し、タイムリーにリンクの更新をしている。

- 災害情報リンク：風水害や地震が起きたときに、それに関する情報だけを集めて作るリンク集

- 防災知識リンク：防災知識を集めたリンク集
- 防災トピックス：防災に関する政府の動向などを集めたリンク集

2.3 地理情報システムを活用した観測データの検索・表示ページ

2004年6月には、地理情報システム(GIS)を活用した観測データの検索・表示ページ(第3図)を開設した。このページでは、国土交通省の様々な部局が保有する観測データを読み出し、国土地理院の電子国土Webシステムを使って同院の提供する地図の上にデータを重ね合わせて表示することができ、地図の移動や拡大も可能である。また、地図上の観測所をクリックすれば、時系列データの表やグラフを見ることができる。なお、各利用者側にダウンロードされるデータは電子国土Webシステム用の形式が使われており、観測データそのものをダウンロードできるようにすることを目的としていない。

このページで現在利用できるデータは次のとおりである。

気象、波高、潮位の観測データ（気象庁、河川局）
 河川の水位の観測データ（河川局）
 台風経路データ（気象庁）
 解析雨量データ（気象庁）
 地殻変動の観測データ（国土地理院）

また、これまでに起きた主な風水害、地震・火山災害に関するページも設け、上記の観測データに加えて被害の状況、天気図、気象衛星画像、地震の震度や津波などのデータも検索・表示ができるようにしてお

り、災害発生が予想されるような場合には事前に類似事例を調べるなどの利用が可能である。

3. 今後の予定など

防災情報提供センターでは、2004年には利用者が拡大し台風来襲時などにアクセスが集中する状況が発生したことから、2005年度から情報提供機能の向上を図っている。また、今後とも、各部局が提供する情報へのリンクの拡大、タイムリーな情報の更新などにより、利用しやすいサイトの運営に努めていくこととしている。



「炭素循環および温室効果ガス観測ワークショップ」開催のお知らせ

目的：地球温暖化に関わる炭素循環（その他の温室効果ガスを含む）の解明と予測に向けた観測・研究に関する科学的議論を行います。

主催：「炭素循環および温室効果ガス観測ワークショップ」組織委員会他

共催：独立行政法人国立環境研究所

日程：2005年11月10日（木）9時～11日（金）17時

会場：メトロポリタンプラザ会議室
 （東京都豊島区西池袋1-11-1）
 池袋駅下車すぐ

内容：以下のテーマに沿って組織委員会から依頼する招待講演（30件程度予定）とそれに基づく討論で構成。

- ・炭素循環および温室効果ガスに関わる観測の現状（大気、海洋、陸域生態系、遠隔計測の4テーマ）
- ・炭素循環および温室効果ガスに関する観測の将来の方向性（IGCOレポートに基づくわが国の炭素循環、および、温室効果ガスに関する観測の実施プラン）

・観測データの利用、炭素循環研究との連携

講演要旨集（和文）：刊行の予定。

登録料（当日会場払い）：

参加費 1,000円

懇親会費 5,000円（懇親会は10日18時からワークショップ会場にて開催）

その他：参加申込受付は9月上旬開始予定。参加申込についての詳細、当日のプログラム等は国立環境研究所ウェブサイトで公開予定。または事務局にお問い合わせ下さい。

事務局：独立行政法人国立環境研究所

地球環境研究センター

（担当 山本・森）

〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2

Tel：029-850-2384, 2349

Fax：029-858-2645

E-mail：co2ws05@nies.go.jp

URL：http://www-cger.nies.go.jp/index-j.html